

1. 次の3つの用語について簡潔に説明しなさい。

- ①雑種強勢（ヘテロシス）
- ②不耕起栽培
- ③作物の品種と品質

2. 次の（1）、（2）、（3）の用語群のうちの一つを選んで簡潔に説明しなさい。  
ただし、（1）と（2）はその用語のすべてを、（3）は4つの用語のうち2つを選んで解答しなさい。

- （1） 稲・麦類
  - ①中干し
  - ②コムギの小穂
- （2） 豆・いも類
  - ①ダイズ品種の機械化適性
  - ②サツマイモのキュアリング貯蔵
- （3） 特産作物，雑穀
  - ①ソバの生態型
  - ②茶施肥の問題点
  - ③蚕の人工飼料
  - ④高糖サトウキビ品種

3. 次の設問に解答しなさい。

今後予測される地球環境変化が作物栽培に及ぼす影響とその技術的対策について、具体的な作物を例に挙げて説明しなさい。

1. 次の用語のうちから5つを選んで、それぞれを簡潔に説明しなさい。ただし、①の用語は必須課題として必ず解答すること。

- ① 土壌伝染性病害
- ② コート種子
- ③ セル成型育苗
- ④ MA貯蔵
- ⑤ べたがけ栽培
- ⑥ 灌水施肥栽培（養液土耕栽培）
- ⑦ 限界日長時間
- ⑧ リンゴのカラムナータイプ
- ⑨ 倍数性育種
- ⑩ アメリカブドウとヨーロッパブドウの相違
- ⑪ 雌雄混株
- ⑫ 自動的単為結果
- ⑬ 真果と偽果
- ⑭ 無側枝性ギク（芽なしギク）
- ⑮ 切り花の短茎多収栽培
- ⑯ S T S（チオ硫酸銀錯塩）
- ⑰ U P O V条約及び種苗法
- ⑱ 屋上緑化

2. 次の設問のなかから一つを選び、答案用紙2枚以内（1600字以内）で解答しなさい。

- ①野菜生産は労働集約的な技術を基に体系化されてきたが、このことが規模拡大や担い手の確保の阻害要因となっている。今後、経営規模の拡大と担い手の確保を図るためには、どのような技術的方策が考えられるか、実例や具体的事例を想定して、あなたの考えを述べなさい。
- ②農業者の高齢化が問題となっている地域において、果樹の新品種の導入を可能にするための技術的対応策を述べなさい。
- ③あなたの担当している（または住んでいる）生産地における花きの主要な一品目について、これまで生産性を高めるために行ってきた方策を具体的に示すとともに、今後それをより発展させるために行わなければならない事項を目標値や方法を挙げて述べなさい。

1. 次の用語について簡潔に説明しなさい。ただし、(1)の2つの用語は必須課題として必ず解答し、(2)の10の用語については、その中から3つを選択して解答すること。

(1) 必須

- ① 飼料要求率
- ② BOD

(2) 選択

- ① 強制換羽
- ② サルモネラ食中毒
- ③ SEW
- ④ SPF豚
- ⑤ ルーメン
- ⑥ ミルキングパーラー
- ⑦ BMS No.
- ⑧ 和牛の遺伝的不良形質
- ⑨ シバ型牧草
- ⑩ 蹄耕法

2. 次の3つの設問から1つを選んで解答しなさい。

- ①近年、一部の畜産経営では排泄物を敷料として再利用する畜舎への「戻し堆肥」が行われています。あなたの知っている具体的な経営の概要（畜種、規模、処理方法等）を1事例簡潔に記述し、その「戻し堆肥」の家畜排泄物処理方法としての長所と注意点について、それぞれ2つ以上あげて説明しなさい。
- ②我が国では、輸入飼料への依存体質から脱却し、自給飼料基盤に立脚した資源循環型畜産経営の育成が重要な課題となっています。あなたの活動している地域における飼料自給率向上のための課題または問題点を簡潔に記述し、畜産経営が具体的に取り組むことができる生産方式や技術を3つ以上あげ、その概要を説明しなさい。
- ③国産畜産物の消費拡大のために、販売価格の引き下げとともに消費者ニーズを捉えた差別化（銘柄）畜産物の開発が求められています。あなたが知っている差別化畜産物生産の具体的な事例を簡潔に記述し、その開発に当たって留意すべき事項を3つ以上あげて説明しなさい。

1. 次の5つの用語のすべてについて、土壌・肥料の立場から簡潔に説明しなさい。

- ① 土壌腐植
- ② 特殊肥料
- ③ 脱窒作用
- ④ p F
- ⑤ 土壌改良資材

2. 次の設問に解答しなさい。

近年、畑や水田土壌中の可給態リン酸や交換性カリが過剰となっている。その原因と対策について土壌肥料の立場から述べなさい。

1. 次の8つの用語の中から、5つを選び、それぞれを簡潔に説明しなさい。

(全体で回答用紙2枚以内)

- ①経済的被害許容水準と要防除水準
- ②指定有害動植物
- ③対抗植物
- ④臭化メチル
- ⑤薬剤耐性（薬剤抵抗性）
- ⑥除草必要期間
- ⑦アレロパシーとアレロケミックス(アレロケミカル)
- ⑧一日摂取許容量（ADI）

2. 次の設問に解答しなさい。

有機農産物に関する日本農林規格では「ほ場等における有害動植物の防除」の方法について基準を定めており、耕種的防除、物理的防除、生物的防除およびこれらを適切に組み合わせた方法が防除の基本になっています。耕種的、物理的および生物的防除のそれぞれに含まれる異なる防除方法を2個ずつあげ、これらについて代表的な作物名と病害虫名、或いは雑草名（雑草については必ずしも固有種名でなくともよい）をあげてどのような防除方法か、また利点、欠点、効果等指導上参考になることを記し、全体で3枚以内にまとめなさい。

1. 次の①から③のすべてについて、簡潔に説明しなさい。

- ①「農作業安全のための指針」について、その主旨を簡略に記し、具体例を挙げてその内容を説明しなさい。
- ②農作物の一斉収穫と選択収穫について、それぞれの長所、短所を説明しなさい。
- ③農業者労災制度（特別加入制度）について説明しなさい。

2. 次の（1）又は（2）のうち1つを選んで、簡潔に説明しなさい。

（1）

- ①農村女性の仕事と子育て両立支援のために提案できる方策を例示しなさい。
- ②高齢者の加齢による労働能力の変化と農業における高齢者の役割分担について説明しなさい。

（2）

- ①作業能率及び作業負担面積を求める以下の式を記号の組み合わせで示しなさい。

あらかじめ与える記号

作業幅  $W$  (m)          作業速度  $V$  (km/h)          圃場作業効率  $E$  (%)

1日の作業時間  $T$  (h)          1日の実作業率  $J$  (%)

作業期間中の日数  $D$           作業期間  $D$  中の作業可能日数率  $K$  (%)

作業回数  $N$

上記記号のほかに以下の記号も使う。

理論作業能率  $C_t$  (ha/h) = \_\_\_\_\_

作業能率  $C$  (ha/h) = \_\_\_\_\_

1日の実作業時間  $T_e$  = \_\_\_\_\_

1日の圃場作業量  $A_d$  (ha/日) = \_\_\_\_\_

作業可能日数  $D_e$  = \_\_\_\_\_

作業負担面積  $A$  (ha) = \_\_\_\_\_

- ②あなたの地域（県）における地域水田農業ビジョンの取組状況と関連する作業技術上の問題点について、簡潔に説明しなさい。

3. 次の2つの設問から1つを選択して解答しなさい。

- ①担い手確保のためにあなたが取り組みたい内容および期待される成果について、事例を踏まえながら1,000字～2,000字程度で記述しなさい。
- ②環境保全型農業の実現を目指して「環境と調和のとれた農業生産活動規範（農業環境規範）」が平成17年3月に公表されました。規範の概要を説明すると共に、あなたの地域を例に、規範に即した環境保全型農業生産の対策について1,000字～2,000字程度で記述しなさい。

1. 次の用語から5つ選んで、各100字程度で内容を簡潔に説明しなさい。

- ①地域通貨
- ②合併浄化槽
- ③特定非営利活動促進法
- ④市街化調整区域
- ⑤バイオマスエネルギー
- ⑥街村集落

2. 農村女性起業に関し、次の設問のすべてについて具体例をひきながら論述しなさい。

- ①女性起業の成長段階に対応した支援方策について（400字以内）
- ②地域空間の特徴をどのように取り入れるかについて（400字以内）

1. 次の用語のすべてについて、簡潔に説明しなさい。

- ①リスク・アナリシス
- ②卸売市場における取引の特徴と近年の変化
- ③細菌やウイルスを原因とする食中毒
- ④残留農薬のポジティブリスト制
- ⑤日本標準食品成分表

2. 次の設問に解答しなさい。

あなたの地域で生産されている農産物または農産加工品を一つ取り上げ、以下の視点について簡潔に論述しなさい。

<論述の視点>

- (1) その農産物・加工品の流通経路の現状と課題
- (2) その農産物・加工品をブランドとして確立するための取り組みの現状と課題
- (3) その農産物・加工品の食品安全性を確保するための取り組みの現状と課題



1. 次の用語のうちから4つを選んで、内容を簡潔に（それぞれ200字程度で）説明しなさい。

- ① 流動比率
- ② 減価償却
- ③ 任意組合
- ④ 農業生産法人
- ⑤ パートナーシップ
- ⑥ 営農生活設計
- ⑦ 必要家計費
- ⑧ 労災保険特別加入

2. 次の設問に解答しなさい。

農業経営改善にあたって家族経営協定をどのように活用したら良いか、あなたの考えを述べなさい。